

第1回 第8期長野県高齢者プラン策定懇話会意見要旨

資料 1

分類		委員名	意見・要望の要旨
プラン全体の方針	現行プランの進捗状況・総括の確認	竹重委員	第7期長野県高齢者プランの進捗状況について、説明してほしい。
		樽井委員	現行プランの総括について知りたい。
		柳澤委員	現行プランの進捗について確認したうえで、次期プランの内容について検討したい。
健康長寿	健康寿命の算出方法	竹重委員	健康寿命の算出方法3つのうち、要介護度2未満を基準に算出する方法以外の方法ではどのような健康寿命の数値になるか。
	若者の介護予防体制の構築	北條委員	若い世代でも脳卒中等で介護が必要になる場合があるため、若い世代の介護予防も視野に入れた今までとは違う予防体制を構築する必要があると思うが、保険料が上がれば利用者の負担が大きくなるので、その点どのようにしていけばよいか考えていきたい。
高齢者がいきいきと活動できる社会づくり	高齢者のための情報発信	金井委員	ICT化が進む中で、インターネットを使えない高齢者に対しては情報が伝わりづらいので、ネットを活用できない方へのフォローも必要。
		井出委員	まだまだ情報社会に追いついていない高齢者は多いので、わかりやすい言葉での発信や伝わりやすい提供方法が大切。
	高齢者の外出・社会参加促進	金井委員	地域につながりが希薄な方は地域活動に参加しづらい状況があるのではないかと感じるので、そのような方へのアプローチも必要だと思う。
		井出委員	家にこもっている人ほど、外に出ていく気力が弱く、認知症になりやすいのではないかと思うので、そのような人をどのように外出・社会参加を促していけるか何か貢献できたらよい。
地域包括ケア体制の確立	老人福祉圏域ごとの連携の促進	樽井委員	老人福祉圏域において、地域の課題がどこにあるか見えず、推進体制がないことから、連携等の困りづらさを感じている。老人福祉圏域ごとにどのような推進体制を取り、どのような結果になったか。また、次期プランでは老人福祉圏域ごとの推進体制や方法を明記していただきたい。
	コーディネーター役の配備	今井委員	地域には宅幼老所やサロン、ボランティアの団体など多くあるが、コーディネーター役が不足しており、うまく地域が連携して課題を解決することができていないので、複数の施設や団体を繋ぐようなコーディネーター役をぜひ配備して地域内の連携を推進してほしい。
家族介護者の支援	若い世代の家族介護の状況把握	小林委員	これからは若い世代が親を見なければいけないということも増えてくると思うが、そうすると就職等にも影響が懸念されるので、今後施策を考得ていく際には、長野県においてどのくらいの人が若い世代で介護をしているのか実態を把握していく必要がある。
認知症施策	軽度の要介護認定者の家族介護の支援	伝田委員	認知症の方々の介護は要介護度が軽度であっても負担の大きいことがあるため、施設入所の基準の見直しも含めて、要介護1・2の高齢者等で家族介護に限界がある方の負担を減らしてほしい。

分類	委員名	意見・要望の要旨
認知症施策	認知症高齢者への支援施策	伝田委員 認知症初期集中支援チームについて、その後全市町村に設置され、どのような結果を生み出したのか知りたい。また、次期プランであらたに設置するチームオレンジにおいて、現在活躍の進んでいない認知症サポーターの活用も含めて検討してほしい。
		柳澤委員 地域で研修を受けた認知症サポーターが実際に地域で活躍できていないので、研修を受けた後も継続して認知症サポーターをフォローしていく仕組みが必要。
	認知症ケアの質の向上	伝田委員 サービスの量を増やすために働く人を増やすことに重点が置かれているが、「安心してサービスを受けられてうれしい」といった声が多くなるよう、これからは質の向上が重要。
	認知症カフェ	柳澤委員 「認知症カフェ」について、今「地域共生社会」ということで多様性が重要になっているなか、「認知症」と対象者を限定したカフェの名称は必ずしも適切ではないと感じる。 伝田委員 認知症カフェは、話したいという意思のある当事者の方々が集まって話せるような場づくりとその支援が重要。
介護人材の確保	介護人材確保状況	竹重委員 市町村において、人材確保の状況を認識できる指標や材料はあるか。
		今井委員 小規模の事業所は加算が増えず、賃金を引き上げることが厳しいため、人材の確保が一層困難な状況。
		藤沢委員 公募をかけても人が集まらない。人材不足について、市内事業所聞き取り調査によれば、家族介護により復職できなかった方が多い状況にあった。
	元気高齢者の介護サービス・生活支援での活躍	萱垣委員 元気高齢者の方々にも社会参加をしてもらうことで介護職の労働環境の改善を図れるのではないかと思います。
		松原委員 元気高齢者の中には活躍したいと考えている方が多くいると実感しているので、今後はこのような方々に一層力を貸してもらい、人材不足を補っていくことで、地域における生活支援サービスの提供を十分に行っていくことができるのではないかと思います。
		萱垣委員 今後は元気高齢者が介護施設を訪問するなど、積極的に参加者を募って行うことによって、人材の確保につながるのではないかと。
		今井委員 宅老所では、新たにサービスの担い手として活動するのは60歳を超えた元気高齢者が主という状況。
	外国人介護人材の受入・確保の支援	萱垣委員 外国人介護人材が多く長野県にも入っているが、日本への送り出し機関に支払う費用が多額であり、小さな事業所においてはこのような費用を負担することは困難。県においても外国人介護人材の受入の支援にもう少し力を入れてほしい。

分類	委員名	意見・要望の要旨
介護人材の確保	外国人介護人材の受入・確保の支援	今井委員 財政的に、小規模の事業所は外国人介護人材の登用が厳しいため支援をしてほしい。また、どこの産業・地域でも外国人人材が不足しており、海外人材の取り合いになっているので、長野県としての魅力やイメージがわかるようにし、海外の方に来てもらえるよう、手厚い政策の検討をお願いしたい。
		北條委員 人材確保は市町村の役割も記載することとなるが、UIターン者を含めた人材確保や外国人人材の確保も含めて検討したいと思う。
	介護職の労働環境の整備	萱垣委員 有休がとれない介護人材が多く、介護の現場は疲弊してきてしまっているため、介護職の労働環境をしっかりと整えていくべき。
		柳澤委員 介護の基本報酬そのものが上がらない限り、人材確保が困難。国に対して関係者で連携して基本報酬について訴えていく必要がある。
		鈴木委員 地域包括支援センターでも介護職、看護職など、すべての職種で人材不足を感じている。報酬が特に課題と考える。次期プランでは、市町村も人材確保に取り組むとされているので、県と協力して推進していきたい。
		小林委員 介護職における離職防止ややりがいということを考えると、サービスの質を評価することが重要。質の評価をどのように計画の中に位置付けるのか、ということを考えていけるとよい。
	介護現場イメージの改善	柳澤委員 介護現場へのマイナスイメージをプラスイメージに変えていくことにより、介護離職の防止や人材の確保は可能なのではないかと思う。
		金井委員 福祉教育の一環として、学生向けの体験の場を提供する事業所が参加者に対してプラスのイメージを伝えられるようなアプローチが必要。また、実際の職業選択においては、保護者・親世代の福祉施設に対するイメージ向上が重要。
	マネジメント人材の育成	柳澤委員 人材の量も大事だが、質も重要で、そのためにも介護職チームの中核となる人の人材育成が重要。特に介護福祉士の確保とそのマネジメント力の育成が大切で、積極的に県において推進してほしい。
	介護現場の生産性の向上	萱垣委員 外国人介護人材の受入の支援が難しい場合、介護ロボットやICTを導入し、それらの活用方法について示してほしい。
今井委員 宅幼老所は現在、介護保険制度の開始前から実施している事業所が多く、事業者が高齢化しているため、ICTの導入や次世代の育成が課題と感じている。		
安全・安心な暮らしの確保	感染症対策	竹重委員 次期指針の災害・感染症対策に係る体制整備を図ることについて、新型コロナウイルス感染症に対する厚生労働省の指針についてどのように対応するのか。
		柳澤委員 次期プランでは、新型コロナウイルス感染症を意識した計画というのが大切。
		藤沢委員 新型コロナウイルス感染症の影響として、介護予防の取組に支障が出ていることから市町村の取組とあわせて県の支援を期待したい。